

## 母子生活支援施設 ちぐさ

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「千草母子寮」（定員5世帯）を開設した。

その後、経営組織改組により社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称の変更も行った。

平成10年には現在地に移転新築し、母と子が一緒に生活できる唯一の児童福祉施設として、広く県内外から母子を受け入れてきた。

百石町に移転以来令和5年3月末までに204世帯が入所し、182世帯が自立している。これからも母子の権利擁護に努め、自立に向けた支援に努めていく。

令和4年度は、入所者支援充実のための指針となる「中・長期ビジョン」及び将来の施設整備を念頭に置いた「経営計画」を策定し、中長期の視点に立った課題の抽出やその解決策の検討・実行を行った。

### ◎令和4年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

#### (1) 母と子の権利と尊厳の擁護

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の施設として、それぞれの生活課題に向き合い、自立に向けた考えを尊重しながら必要な支援に努めた。

#### (2) 利用者の意向を踏まえた切れ目のない支援の展開

年度当初に22世帯の支援計画書を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し、随時見直しながら対応に努めた。また、令和4年度からは有識者にスーパーバイザーを委託し、その助言を受けるなどしてより専門的な支援を展開した。

#### (3) 関係機関と連携した就労支援の強化

延べ求職者は10名で、福祉事務所と連携した求人情報の提供や事業所見学等の同行支援（4名）を行い、7名が就職に至った。

#### (4) 養育・保育に関する支援

延べ28名の幼児の預かり保育を実施した（コロナ感染拡大により、保育は極力母親で完結することとしたため預かり保育数は令和2年度以降減少している）。

#### (5) 母親に対する基本的生活習慣の支援

延べ育児はもとより掃除、食事、入浴に関して未熟な母親が多く、その都度職員が部屋に入り、手伝い・助言を行った。

#### (6) DV被害世帯のための広域利用や一時保護委託の受け入れ

令和4年度は2世帯の広域利用（市外）があった。また平成19年度から高知県女性相談支援センターと一時保護委託契約を結んでおり、1世帯を13日間受け入れた。

(7) 地域ニーズに応えるためのショートステイ・トワイライトステイの実施

令和4年度は1世帯のショートステイの利用があり、10日間の受け入れを行った。なお、トワイライトステイの利用はなかった。

(8) 防災・減災対策の実施

毎月1回の避難訓練を実施。3月には、消防職員を招いての避難及び消火器の操作訓練を行うとともに、南海トラフ地震対策として、最寄りの緊急避難場所である潮江小学校までの集団避難訓練も実施した。また、南海トラフ地震を想定した事業継続計画（BCP）の策定も完了した。

(9) 職員の資質と施設運営の向上

中・長期ビジョン策定に合わせ、人材育成計画及び研修計画の策定を行った。主任制導入によるOJTの充実やケース会の積極的な開催による職員の知識や意識の向上など人材育成計画に位置付けた項目の推進を図った。なお、研修については、引き続きオンラインによるものが大半となったものの、関係機関の主催する各種研修等に参加し、それぞれのスキルアップに努めた（14回のべ15名）。

(10) 特定妊婦の積極的な受け入れ

令和4年度は特定妊婦の受け入れはなかった。なお、一般社団法人全国妊娠SOSネットワーク主催の「予期しない妊娠への相談対応研修」に母子生活支援施設の立場から参加し、母子生活支援施設が妊産婦を受入れすることの可能性や課題等について発表する機会を得るとともに、専門家との情報交換を行うことができた。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
定数（暫定）	27世帯 (26)	27世帯 (22)	27世帯 (22)	27世帯 (24)	27世帯 (26)
入所世帯数	17世帯	22世帯	22世帯	22世帯	22世帯
入所人数	43名	55名	55名	53名	55名
職員数	10名	10名	11名	12名	12名

※職員数：契約職員及びパート職員を含む

◆令和4年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	21	21	21	24	24	24	23	23	22	23	23
入所	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0
退所	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1

◆令和5年3月31日現在の入所世帯状況 (定員27世帯 暫定26世帯)

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	22世帯55名 (内児童数33名)			
	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒ 7	県内市町村 ⇒ 14	県外 ⇒ 1	
	主たる入所理由	D V ⇒ 5	住居の確保 ⇒ 6	養育支援 ⇒ 11	
	在所年数	5年以上 / 6	3~5年 / 7	1~3年 / 5	1年未満 / 4
	就労者の状況	常雇 2名		パート 13名	無職 7名
	母親の年齢構成	10代 / 0名	20代 / 7名	30代 / 8名	40代 / 4名 50代 / 3名
	子どもの年齢構成	乳幼児 13名	小学 11名	中学 5名	高校等 4名 大学等 0名

◆令和4年度の入所者の状況

世帯	職業 (入所時)	入所理由	措置元	世帯 構成
1	無職	同居していた親宅が手狭なため市内から転入	市内	3名
2	無職	義親からの母子への暴力等により市外から転入	市外	2名
3	無職	夫や義親からの母子への暴力等により市外から転入	市外	4名
4	無職	雇用機会の多い本市での就労自立をめざし市外から転入	市外	2名

◆令和4年度退所者の状況

世帯	職業	退所理由	在所年数	世帯 構成
1	無職	措置理由(DV)消滅により市内に転出	9年7か月	2名
2	無職	妊娠のため措置元の方針により市内に転出	5年3か月	2名
3	無職	県営住宅入居により市内に転出	3年0か月	3名
4	無職	就労・自立により市内に転出	3年3か月	2名

◆各種研修会等への参加状況 (14回/のべ15名)

- 広島県母子生活支援施設協議会職員研修会・・・・・・・・・・ 1名
- 第43回全国母子支援施設職員研修会・・・・・・・・・・ 1名
- 社会福祉法人会計セミナー「基本編」・・・・・・・・・・ 1名
- 中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会・・・・・・・・ 2名
- 令和4年度福祉サービス苦情解決セミナー・・・・・・・・ 1名
- ジョン・マクニールセミナー  
「禁止令の新しい診断表について」・・・・・・・・ 1名

- 管理職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 母子生活支援施設指導者研修・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 高知市子育て応援講演会
  - 「沈黙のヤングケアラー ～その笑顔の内側に～」・・・・・・・・ 1名
- 第65回全国母子生活支援施設研究大会・・・・・・・・ 1名
- 令和4年度高知市子育て支援研修・・・・・・・・・・・・ 1名
- DV対策連携支援ネットワーク会議及び専門者研修会・・・・ 1名
- ファミリーソーシャルワーク研修会・・・・・・・・・・・・ 1名
- 福祉サービス第三者委員ブロック別研修会・・・・・・・・ 1名

◆主な年間行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、入所者及び職員の行動が著しく制限され、多くの行事の縮小・中止を余儀なくされたが、感染防止の徹底を行いながら以下の行事を実施した。

- 4月 母親健康診断（1回目）
- 5月 こどもの日行事（乳幼児向け）
  - こいのぼり昼食会
- 7月 護衛艦見学
- 8月 親子行事（乳児、幼児向け）
  - 工作を作ろう（実習生参加）
  - 夏休み食事会
  - 夏休みレク活動
- 10月 母親健康診断（2回目）
- 11月 ちぐさ秋祭り
- 12月 クリスマス会
- 2月 節分祭
- 3月 ひな祭り